



## - 福知山線脱線事故から今日で21年 -

# 輸送サービス労働を捉え返し、 安全・安心感ある輸送サービスを 確立しよう！

### 事故から21年 「安全・安心な公共交通」を実現するために 職場討議資料を読み返して職場で仲間と議論を行おう！

2005年4月25日、107名がお亡くなりになる福知山線脱線転覆事故が発生してから今年で21年を迎えました。私たちは、この事故を教訓として安全風土の再確立に向けて、様々な視点から職場で議論をつくり出してきました。JR西日本では、事故から21年が経過し、事故を知らない社員が増えていることから、「事故の継承が課題となっている」と言われていますが、JR東日本やグループ会社においても同じことが言えます。

この間、私たちは地域の皆さんの意見を聞きながら「公共交通とはどうあるべきか」を考えてきました。その中で「単なる移動手段としての鉄道だけではない」ということ、そして「車窓から眺める四季折々の風景の良さ」「駅のホームで交わされる人々の挨拶といった人と人とのつながりの大切さ」など、鉄道ならではの光景の声が寄せられています。その前提は、「安全で安心してご利用いただける鉄道」です。

JTSUは、公共交通機関の社会的使命と役割を明確にし、利用する皆さんが「私たちに何を求めているのか」を自覚し、その期待と負託に応えられるJR東日本グループと職場をつくり上げる議論に活用するために昨年討議資料を発行しました。今1度読み返し、私たちの業務を捉え返し、この事故の教訓から「何を大切にすべきか」「何を守るべきか」をあらためて明確にしていきましょう。

討議資料はこちら⇒

